

「教会に仕える信徒が整えられて」

理事 村上宣道



「あなたこのごろ、なんだか生き生きして輝いてるように見えるけど、秘訣はなあに？」
「そう？わたしね、近ごろお勉強はじめたの」
「えっ、何のお勉強？」

「お茶の水聖書学院というところで聖書の勉強始めたのよ」
「ああそれで。むずかしくない？」
「わたしも、今になって勉強始めるのには、ちよつと勇気がいったけど、先生たちがいてねいに指導してくださるから大丈夫みたい。私ね、聖書がどんどん開かれていくみたい。とっても楽しみなの。あなたも一緒にしてみない？」

「それじゃ、わたしも行つてみようかしら」

というような会話のやりとりがあつて、私が奉仕していた教会の何人かがお世話になるようになったのでした。どんな宣伝よりも口コミが一番のようです。

正直のところ私はこのお茶の水聖書学院（OBi）について十分知っていたわけではありませんが、私の尊敬できる先生方がおられるので推薦させていただいたのでした。そこを卒業した方、いま学んでいる方から様子を聞くにつけ、「なるほど、いい学びの場なんだ」と認識させられた次第です。

もともとOBiはお茶の水クリスチャンセンターから始まったという歴史的な経緯もあつて、私が今その理事長であるということから、今度OBiの理事の一人に加えていただくことになりましたが、そこに主のお導きを覚えて感謝しています。

このOBiは、教会に仕える信徒を育成することを目的としてい

ると伺っています。聖書に、「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだなる教会を建て上げるため」（エペソ 4・12）とあるように、教会が教会らしくその使命をはたしていくための力ぎは「聖徒たち」すなわち信徒たちが十分に整えられて、その働きに従事していく事にあると言えます。お茶の水聖書学院はその重大な使命の一端を担わせていただいているのだと思うのです。

これからますます、教会の信頼を得つつ、その大切な役割りを果たさせていただくOBiとなりますようにと、心より願つて止みません。

Ochanomizu Bible Institute

OBi

お茶の水聖書学院

NEWS



〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1
OCCビル 2F
TEL 03-3296-1005
FAX 03-3296-4641
e-mail office@obi-net.com
Web http://www.obi-net.com
お茶の水聖書学院
お茶の水聖書学院後援会

第18回卒業式報告

戸川 偕生

卒業式の概要

2011年3月5日(土)午後2時よりOCCチャペルにて第18回卒業式が行われました。
今回の卒業生は聖書科の小宮明子姉、田中美枝子姉、西口修八兄の3名です。



藤原副学院長の司会、内藤真奈先生の前奏のうち、来賓、理事、講師、卒業生が入場し、式が始まりました。堀先生の祈祷、賛美、世良田新学院長の挨拶、植木朋子先生の特別賛美の後、横山武先生がマタイ5・13、16から「イエスの弟子として生きる」と題して、地の塩の自覚と世の光の輝きを持つて全き献身のうちに歩みなさいとのメッセージをされました。

賛美の後、卒業証書授与、記念品授与があり、次に祝辞を山崎製パン(株)の飯島延浩社長、小竹向原キリスト教会の上田富久子牧師、卒業生代表中島總一郎兄から頂きました。

祝電披露に続いて、答辞を小宮明子姉が、記念品贈呈を西口修八兄がされました。

賛美の後、山口先生による派遣祈祷、頌栄、西先生による祝福、後奏を持って式を終了いたしました。

卒業式を終えて

第18回卒業生 小宮 明子



卒業は私にとって一里塚ではない。これからもOBIでの学びは続くのだから。そう思いつつ、まだ卒業式の余韻の中にあるとき、その地震は起こりました。最初の少しの揺れは、あらあら、と思っている間に激しくなり、長く続く揺れの中で、ガラス戸の食器棚を押さえながら、私は絶望的な恐怖と自分の無力さを感じていました。これが東北地方・太平洋沖

地震という、未曾有の災害の始まりでした。日頃どんなに高い志を持つと、神様のお働きの一翼を担いたい、などと豪語してようと、命の危険の前には怖じ惑うだけの者ではない。実に神様が宣教を託された者は、このような、取るに足らぬ人間たちであつたのだと、改めて思うのです。

神様が「あなたでいい。あなたでなければ語れない人がいる」と、私を選んでお茶の水聖書学院に置いてくださいました。学んだことをどのように生かせるのか。あるいは自分の思いもよらぬ方法で神様を宣べ伝えるのかも知れません。「御心がなりますように」と祈ることさえ、とても勇気の要ることです。せめて神様のお心に身を潜めたいと思います。「私はあなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたのみわざを静かに考えよう。」(詩篇77・12)災害で多くのものを失われた方々のために祈りつつ。

入学式報告

中島總一郎

4月4日(月)午後6時30分から、OBIの2011年度入学式・始業式がOCCビル8階のチャペルで福井師の司会をもって行われた。例年に比べて今年の特徴は、入学者が多かったことである。本科、専修科、聴講、音楽科、通信科を含め全部で14名であった。OBIで学ぶ学生が増えることは喜ばしいことである。

前奏、賛美の後に堀師による新入生へ祝福の祈りがあり、藤原副学院長から、聖書の御言葉をそれぞれひきつつ、神がおられ助けが来る上を見、掘り出された穴のどこから救われ、導かれたかの下を見、主のいづくしみが満ちており、かつ隣人がいる周りを見つつ、フランスのとれた歩みができる学生であつて欲しいと挨拶があつた。音楽科の遠藤講師による詩編23篇の特別賛美の後、世良田学院長

よりピリピ2・12「16から」入学の達成に向かつて」との、次のようなメッセージがあつた。「新入生にはそれぞれ目標があるう。基本は、キリストが歩まれたように、神に従順で、御言葉で武装して立つことだ。その志を立ててくださったのは神であり、神が押し出してくださつた。まず自分の信仰を確立するために学び確信したなら実行して欲しい。暗くなりがちな世だからこそ、力強い信徒に育ち、世に輝いて欲しい。箱を置いて皆さんに義捐金を募る。実際に行動していこう」

賛美、頌栄、祝福、後奏をもつて式は終わった。そのあとのオリエンテーションでは、世良田師が所属教会に従い忠実であることなどの学院生として留意すべきことを伝え、教務の福井師から、単位修得や卒論、スクーリング、研修旅行などについて説明があつた。



入学生のことば

本科通信一年 島田裕子

OBI本科通信コース、聴講生として入学させていただいたのは2006年1月でした。

5年間マイペースで学んできました。学べば学ぶほど、神様が私のことを深く愛しておられることがわかり、感謝と感動で心がいっぱいになりました。

私のまわりには、神様の愛を知らずに鬱状態になってしまった方や自分の存在価値がわからずに死を望む若者がいます。

さらに深くOBIで学び、心の主にある喜びでいっぱいにして溢れさせたいです。そして、悩んでおられる方々に神様の愛を伝えたいと思い本科に編入しました。どうぞよろしくお願いします。

本科一年 山本潤

教会学校で育てられ、約30年前に主の救いに導かれた。教会では諸々の奉仕をさせていただいたが、『会社での働きの残りが少なくなる頃には、信仰を深めるため、福音主義信仰に基づく超教派の神学校の機会を』と祈っていたところ、2年ほど前に当学院の先生に出会わせていただき、具体的に当学院への入学を祈り始めていた。入学が許され1週間ほど経た今、とてもよい神学校に導いて下さつたと感謝している。将来は、当学院での学びを生かし、これまでの社会での経験を通して頂いた主の恵みを証し、社会で生きていく多くの方に伝えていくことを祈りたい。

学窓トピック

聖書科・音楽科

●第18回卒業式

3月5日(土) 午後1時半より
OCC8Fホールにて、お茶の水
聖書学院第18回卒業式が行われま
した。西口修八(東京フリー・メ
ソジスト教団・青梅キリスト教
会)、小宮明子(フェローシップ
デイコンリー・小竹向原キリス
ト教会)、田中美枝子(イムマヌエ
ル綜合伝道団・中目黒教会)の三
名が卒業されました。

●声楽科ミニコンサート

春特有の強い風の吹く寒い日
でしたが、約30名の方々と共に賛美
のわかし合いの一時でした。学院
生、OG、講師、ピアノリストの豊
かな賛美は4Fの小ホールに声量
たっぷりと響き渡り、祝福の内に
終える事が出来ました。

●教会音楽科学年未発表会

2月22日(火) OCC8Fチャ
ペルにて、教会音楽科学年未発表
会が開かれました。参加者10名
学びの成果が発表されました。

●サマースクーリング募集

今年も夏の恒例であるサマース
クーリングを7月4日(月)～6
日(水) 2泊3日の日程で、軽井
沢恵みシャレーにて開催いたしま
す。今年の講師は、村瀬俊夫先生で、
「霊性の深まりを求めて」をテーマ
に実施いたします。内容は次のと
おりです。

- 1 日々の霊性
 - 2 「愛の深呼吸」としての祈り
 - 3 キリストの歩みにならう
 - 4 復活のキリストと共に
 - 5 地球の霊性
- 別枠ですが、追分教会にて、声
楽(植木朋子先生)、オルガン(内
藤真奈先生)のセミナーも開催さ
れます。奮ってご参加ください。

2011 年度前期開講科目

	月	火	水	木	金	土
I	11:00 ～ 12:30	信仰生活のための 聖書教理入門(*) 福井 誠		旧約聖書の思想と概説1 (*) 西 満	*	
II	13:30 ～ 15:00	マタイの福音書研究(*) 世良田湧侍		使徒の働き(原始教 会の歴史がわかる) (*) 藤原導夫	コリント人への手紙 1 山口勝政	
III	15:30 ～ 17:00	聖書原典購読 野口 誠 説教ゼミ 藤原導夫		*	教会史 (宗教改革の歴史) 横山武	
IV	18:30 ～ 20:00	「魂への配慮」を学ぶ 堀 肇		*	人物に学ぶ(モーセ の生涯を中心に) 河村従彦	

- ・2011年9月26日～10月5日(ドイツ・スイス) 予定の海外研修ツアーは、2単位認定科目扱いとなります(在学生)。詳細は、事務局(03-3296-1005)までお問い合わせください。
- ・(*)の科目は必修科目になります。

クラス報告 『教会史』

担当 横山武

宗教改革期の学びと体験的学习

プロテスタント教会の諸派は、どのグループであれ、その系譜をさかのぼれば宗教改革期にたどりつくことになります。そしてプロテスタント諸教派の苗床ともいえるべきその宗教改革は、ヨーロッパにおける歴史の転換期を担う2大歯車の一つとして、単なる宗教史の範疇を超えた、重要な役割を果たす歴史的な出来事でもあったという事実に気づかされるのです。なおもう一つの歯車はルネサンス運動とよばれる、人本主義的近世思想発生の時代的うねりで、一般にはイタリアにおける動きが最も知られています。

今学期の学びでは、(1)宗教改革の原因（なぜ起こったのか？中世末期の時代状況との関わりなど）、(2)宗教改革の様相（いつ何処でどのように起こったのか？その進展状況や範囲など）、(3)宗教改革の

結果（何がどのように変わったのか？その時代と歴史における意義や現代にたいする意味など）の三方面から取り上げて考察します。この度の学びの一つの特徴は、教室での講義を通して学んだことを、16世紀に実際にルターやカルヴァンが祈り、学び、信仰のために戦った現場を訪ね、自分で経験するという貴重な機会が備えられていることです。信仰の偉人たちの活躍を目で見、同じ場所を歩んで体験的に知ることは、教室で学んだ事柄が単なる知識にとどまらず、生活での感動として信仰を深め、より良い教会奉仕の幅を広めるようになる期待しております。



「教会史を受講して」

研究科 三浦喜代子

横山武先生の『教会史』は18年ぶりです。OBIが開校して2年目の1992年に初めてクラスが開かれました。必須科目でした。テキストに指定されたケアンズ著『基督教全史』の重さも苦にせず、

嬉々として学んだ日々を懐かしく思い出しました。

学びの中で、使徒後教父たちの働きに驚き、以後、現代までの基督教歴史に深い関心を抱きましました。

今年、心待ちにしていた『宗教改革の歴史』を学ぶにあたり、18年前と同じような心の高揚を覚えています。

横山先生があつた頃と少しも変わらずにこやかに教壇に立たれ、たいへん感動しました。

このクラスは、秋には研修旅行が企画されています。そもそも、それこそが受講する最大の目的です。十年ほど前から、いくつかのツアーを物色、申し込んだこともありましたが定員不足で成立せず、残念な思いをしてきました。今度こそ、主にお許しをいただいて、参加したいと今から祈り願っているところです。

創立20周年記念イスラエル研修ツアーの感激、感動

学院長 世良田 湧侍

イスラエルのテルアビブに予定通り到着。3月8日にはバスでテルアビブから東に向かいダビデとゴリアテの戦いで有名なエラの谷へ（1サムエル17・2）、南下してラキシユ（2列王18・14）の遺跡を見学、さらに南下してベエル・シェバでアブラハムの井戸の跡（創21・31）を観て、死海のエンボケで一泊した。翌日は、要塞



マサダに登り、さらにクムランを経てエリコを観た後、北上してテベリヤに着いた。死海で雨が降ったのは珍しく虹も見た。

ガイドのドビ氏はユダヤ人で杉原千畝領事の関係で助かった人の子孫だという。旧約時代の遺跡をよく調べてユネスコ世界遺産に指定された各遺跡を用意した資料を広げて詳しく解説された。

ガリラヤではテベリヤに3泊したのでじっくりと周辺を回ることができた。まずガリラヤ湖の船に乗り、風と雨との揺れる船の中でイエスの船乗り体験。ゲノサレに着いたときは不思議に晴れた。そこで干魘で発掘された2千年前の木造船を眺め、その後山上の説教の会堂、カペナウム会堂跡、ペテロの家の遺跡、5瓶2魚のタブハを経て、バスでエンゲブに着き、ペテロの魚を昼食に戴く。その後は一気に南下してベテ・シヤンの遺

跡を見学、ペリシテによってサウルとヨナタンの死体がさらされた（1サムエル31章）のは、この丘（テル）ではなく下の城壁だと聞いた。

翌日はガリラヤ湖を右にして北上、まずハツォルに立ち寄った。ここはヨシユアの北部侵入作戦で滅ぼされた王ヤビンの城跡である。ヤビン王の勢力範囲は東西のカナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジン山地のエブス人、ミツパの地にあるヘルモンのもとのヒビであった（ヨシユア11・3）とあるが、ヨシユアに対抗して総力を合わせて戦ったが、メロムの水あたりでヨシユア軍に追撃され聖絶された。

なお旅は続き、最後にはエルサレムに3泊した。結局わたしが今回初めて立ち寄った遺跡は、ラキシユ、ベエル・シェバ、ベテ・シヤン、ダン（士師18）、メギド、カ

イザリヤ海岸の街、エルサレム地下道、南壁の下遺跡、ギボン（1列王1・33）とシロアムの池（ヨハネ9）などであった。18日無事成田へ帰国、背後の祈りを感謝した。

参加者の声

聴講生 中島 和子

涙でかすんだイスラエル旅行、祈り継がれたエルサレム。

前日の春の陽一転、銀世界の成田空港に一抹の不安を覚えつつ、飛べば心はイスラエルへと一眠り。着いたテルアビブは雨の真夜中。時差ボケを振り払い、土砂降りの雨にも負けず行動開始。ダビデとゴリアテの戦いで有名なエラの谷に始まり、イスラエルをベエルシェバの南からダンの北へ山（テル・丘）に登り、谷（平地）に降り、海（湖）を渡り、果ては地下に潜り、ひたすら歩いて旧約聖書を体感した。そして、5日目の朝の大地震発生ニュース。詳細

をつかめず不安が募る車中、ダン遺跡入り口での祈りを成田まで一同続けた。手を尽くして集める家族や関係者からの報告は日毎に被害の重大さを増し、ホテルのテレビで繰り返される被災地の惨状に、生きて生き続けてほしいと涙が止まらず、悲しみを共有していないことへの申し訳なさに胸が一杯になった。

振り返れば聖書に深く触れたと実感した学びに感謝。慰めと励ましをくれた異国の人々と祈ったエルサレムにまた行きたい。



聖書科 倉内一寿

私は長年の念願がかなって、今回初めて聖地旅行に参加しました。最初にダビデとゴリアテの戦いで有名なエラの谷へ、ついでヒゼキヤの時代にアッシリヤ帝国の大軍に囲まれたラキシユの遺跡を見学しました。この時ヒゼキヤは一体どんな思いで、祈りをささげたのか。私は実際の現場に立って、ヒゼキヤの心情を思うと胸が痛くなり、何とも言えない大きな感動を受けました。そしてヨシュアがヨルダン川を渡って最初に占領したエリコ、イエス様も舟に乗られたガリラヤ湖、ハルマゲドンの舞台でもあり、善王といわれたヨシヤ王がエジプト軍を迎え撃って破れたメギド等々、一つ一つ聖書の光景が目につかび、素晴らしき体験でした。今回の旅行を通して、聖書の教えは歴史的にも正しいことを改めて確認することができ、大変恵まれ、元気をいただいたて帰ってきました。

この秋・ヨーロッパへの旅ご案内

ＯＢＩでは創立20周年を記念して、今年の春に「イスラエルの旅12日間」と銘打ってスタディツアーを行いました。そのシリーズ第二弾として「宗教改革の足跡とバッハをたどる10日間」というスタディツアーを計画しています。

しょう。

ドイツでは、主にマルティン・ルターの宗教改革の足跡をたどり、またバッハの足跡にも触れ、スイスでは主にジャン・カルヴァンの宗教改革の足跡を訪ねます。参加者は原則としてクリスマスチャンであり、ツアーの目的と趣旨を受け止めて参加なさる場合には、その意味での収穫は必ずや豊かに与えられるであろうと期待しています。

単なる観光ツアーではなく、スタディツアーなので、参加希望者には今学期毎週金曜日13時30分～15時、横山先生による「宗教改革の歴史」クラスを受講する機会が提供されています。もちろん、それを受講しなくても参加は可能ですが、クラスを受講してツアーに参加することができれば、旅の味わいは格別なものとなることで



OBI会計報告 (2010年11月17日～2011年4月20日)

2010年度もご協力いただきありがとうございました。

◎後援会献金

●後援会維持会献金

有田 貞一 有田美榮子
飯島多稼夫 猪狩 友行
小野沢恵子 金本 悟
木下 順子 国東 恵子
窪井 節子 小林喜久男
斉藤とし子 佐藤 敬
芳賀 功 中島總一郎
須子 都 三浦喜代子
世良田湧侍 田中 恵子

●後援会協力献金

脇坂 勇 中山キリスト教会
黒沢すぎの 佐野 盾一
永井みよ子 石塚 幸子
生島 陸伸 滝田 幸恵
中城 昭治 尾原 光彦

2010年度 OBI 半期会計報告 (2010年3月～2011年2月) (単位千円)

当期収入	金額
授業料収入	8,608
助成金収入	3,000
献金収入	10,436
その他収入	53
収入計	22,097
当期支出	金額
学事支出	6,748
行事支出	528
経費支出	14,518
支出計	21,794
当期収支残	303

●20周年記念献金

阿部 幸平 東 与三次
原 正子 山口 勝政
練馬神の教会 三友 康子
古河教会 内藤 真奈
長橋和彦・晴子 黛 藤夫
高橋 宣広・まりか 国東 恵子
飯田 みか

◎OBI献金

●OBI協力献金

倉内 一寿 有田 貞一
中島 和子 鬼京由紀子
安藤 谷子 阿久津千枝子
田畑 勝敏 小林 享子
篠田 一志 川端 安弘
石井 由紀 町田 恵子
松本 逸子 戸川 偕生
新井 由美 シムス由季子
萩原 滋 藤村 陽子
高野 富男 宇田川智裕
中島總一郎 山本しずか
嶋本 洋子 小澤ナオミ
山口 松子 小玉久美子

●OBI感謝献金

土井 貴代 横田 孝子
和氣 敏治 中城 昭治
小宮 明子 加茂 康一
加茂 早苗 田中 恵子
ホサナキリスト教会
市川北バプテスト教会
イスラエルツアー参加者(大震災義捐金へ)

●その他の献金

斉藤 潔 平田 仁美
倉内 一寿 南澤貴美子
稲垣緋沙子 堀 肇
宮本三枝子 宮内 芳枝
飯島 勅 山崎製パン

昨年9月4日に召天されました増田誉雄前学院長の追悼式を今年の9月に召天1周年を記念して開催するように企画しております。OBIの関係者ほか皆様のお祈りをお願いいたします。